

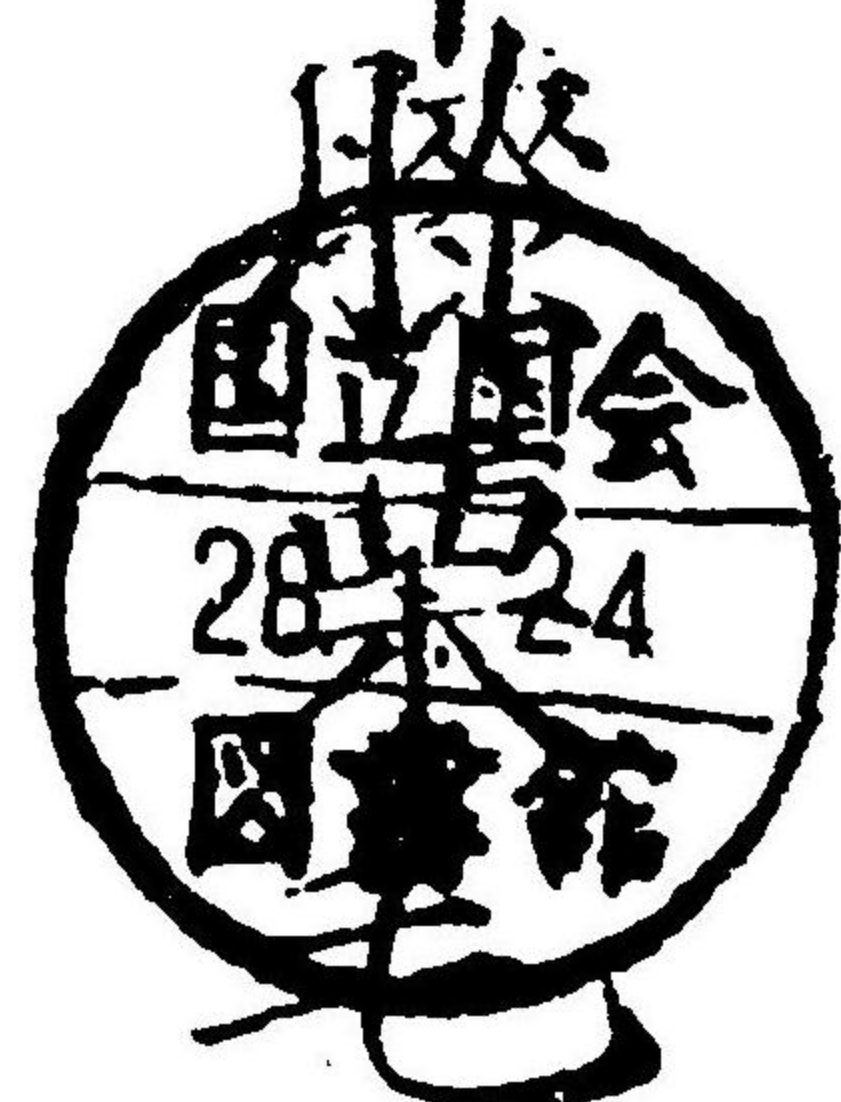
假名垣魯文戲著



萬國

航海

西洋道中



東京書肆

萬笈閣

西洋箇中膝栗毛初編序



稗官者流を蒸氣船と比較して謂ぐ各脚色の  
原稿ハ燭火筒ニ彷彿繪組の器扱ふ油を指て  
走らば筆の車は兩輪彼石炭の烟ヲ筆先  
忘語と正説を換骨奪體クバッテリーラ的手段を  
盡し看官の腹を測量喝米を千里乃外リ

假名垣魯文戲者



萬國  
航海

西洋道中



東京書肆

萬文閣

西洋道中膝栗毛初編序



稗官者流を蒸氣船に比較して謂はる各脚色の  
原稿ハ檣火筒より彷彿繪組の器扱ふ油を指て  
走らば筆の車は兩輪彼石炭の烟は等しい  
忘語と正説を換骨奪體くバッテリーの手段を  
盡し。看官の腹を測量喝米を千里乃外り

採評を萬里に得まく欲せらる。爰に著作を  
 膝栗毛八例の稗史と小同大異新奇新聞  
 西洋道中先横濱を發端し華採初  
 假名垣大人が滑稽自在の航海術一度  
 巻を披く徒ら。於臍の火筒く湯衣  
 沸し。臍の器械も破損つる。嗚呼奇

なり。魯先生妙なる哉。文夫子實  
 此道の船將とも。祢く可なりと感  
 ずる餘り。僕水夫のマドロスまで旗の印も  
 見分給ど。亞蘭比亞馬の驥尾に附此大  
 艦に乘組く惣鍊張の鐵面黒皮厚の  
 まし。序と爾云。

明治三庚午歲九月重陽早且

東京淺草諏訪街の氷狐堂

碇泊の閒

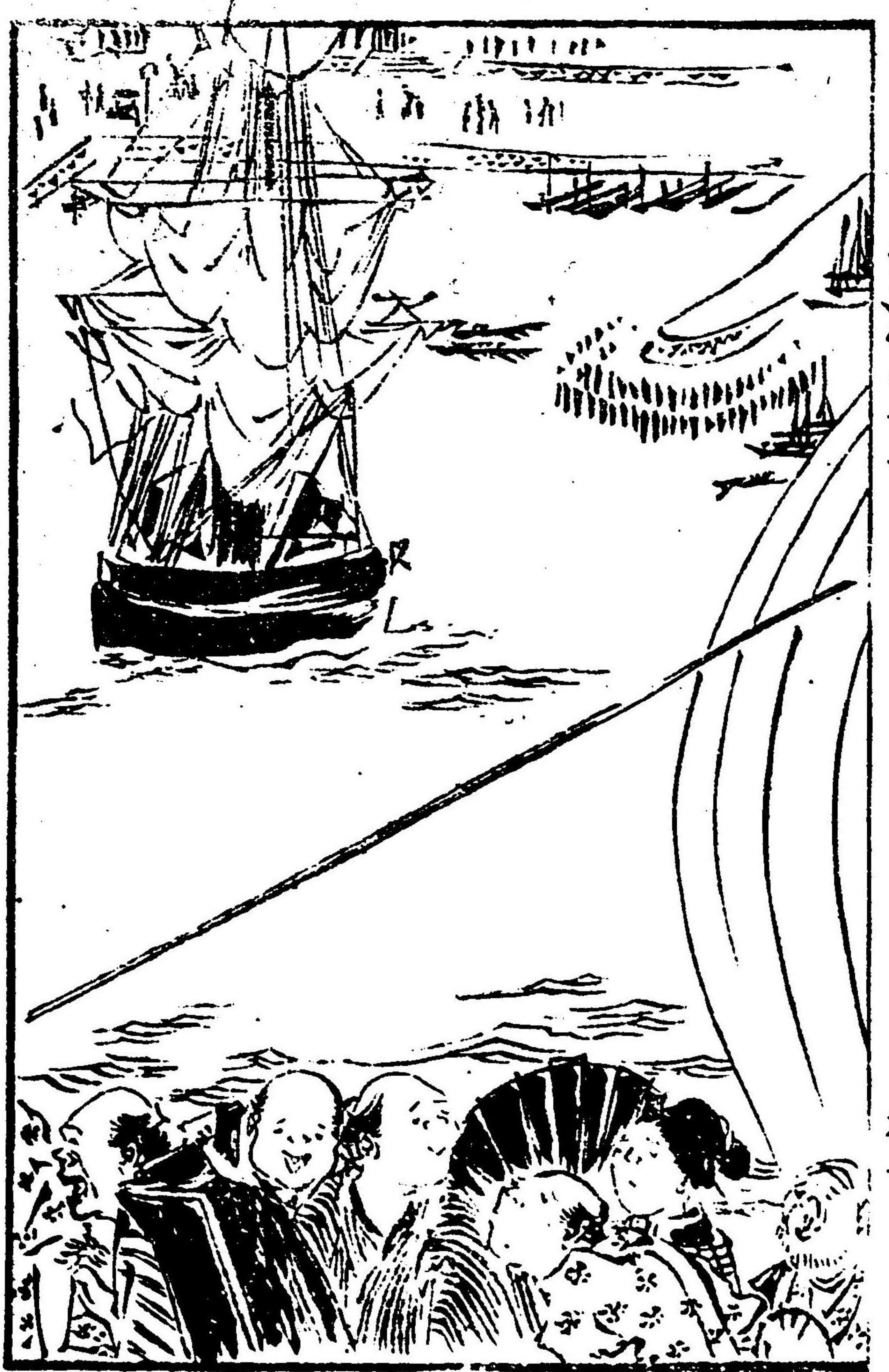
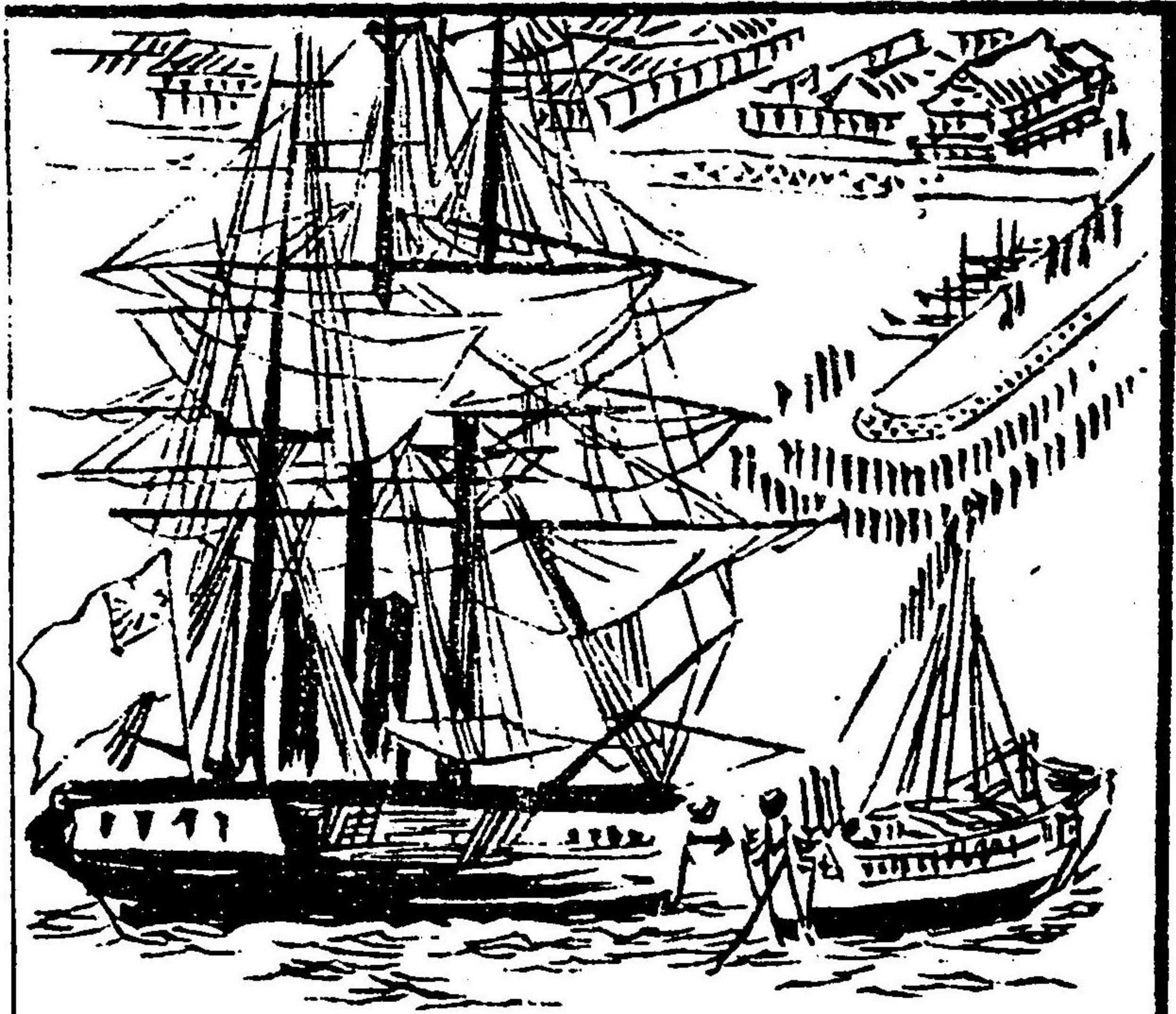
鉄舟

南港隠搦人 河 丈紀戲題



凡例

○元祖十返舎一九が作ある道中膝栗毛の初編刊行ありて世に流布せし享和二壬戌歳の春はて當年を去ること既ふ六十九年ふ及び滑稽の妙運旅の奇至れり尽せりと由所謂流行送れの類ひは落目今の形勢も弘まれば人情齟齬まることこのそまうり是も次て二世三世の一九等が膝栗毛あれども時の文政と隔り弘化嘉永と遠退たれば今のむじとありはなり僕年來戲作の筆は口を糊せど滑稽の道は疎く笑語類は不可はそ斯る釋史を綴らんとて世の嘲を招く似されと活計を如何せん



東去金川二里餘  
 四通五達築街衢  
 誰知七八十家市  
 便是繁華小荏都  
 軍艦の帆も  
 曲豆形く春の風  
 松伯

西海東洋

九例二

西海東洋

九例二

○趣向新奇を競ひ標目未發あるを可ありとせざるものなるは弥  
 次北八の三世の孫等外國廻りの滑稽をとりて此釋史の大意と  
 せざるものなるは顯号も西洋道中の目わり速莫僕が文盲なる書  
 の草冊子の外を讀む何ぞ學びん異邦の事情然れども文物盛  
 典の徳らる近世福澤先生を始め諸々の洋學先生が著述さ  
 れた譯訳の書とせしむるは餘りたる階梯ふらうたて大略は余を  
 濁すものあり杜撰廉漏の釋官者流の性來あれば必しも論  
 べて意中をそとらひぬる恥書こととを平常とせれば恥と  
 思ふものありと嗚呼自己あぐ達者ある哉

作者魯文自記



西洋道中膝栗毛初編上

日本東京 假名垣魯文戲著

夫天地者萬物の運旅光陰の百代の過客あり。而して  
 浮生の夢の若し。歡びを為さんと幾何ぞや古人燭と秉  
 つく夜を遊ぶ。良に以有也と。李白が桃李一編の病帳ふ  
 落書せし。所謂一杯の酒真ふ似これど。能乾坤の旅情を  
 冬せり然のあれども文明開化の當時の旅ハ往古の異  
 なく。萬國世界ハ親類附合。さうらうに。陸より蒸氣車

海河の葦と氣船の器械を備へ自國の庭中を巡るが如く。  
 鬼門關外遠しとせむ。五十三驛六十九次奥の細道蝦  
 夷十州大砲一發三千里。首途の酒の醒ぬるは着府入  
 港神速ある。實は天恩の御新制最有利難た御代  
 ある。茲は日本武藏の國。昔の大江戸當時の東京  
 かぐ神田の八丁堀は住居の名をとり大槩は旅よの光  
 陰を送りし。枳面屋孫次郎兵衛。此利喜多八の二個  
 の者。一個宛の男子あり。瓜の蔓は茄子は生らば彼等

もかむじく梅好きて。親父の遺せし終日記よ。歩行餘じ  
 跡と踏関の東の房総常野近郷近在番く燈あぐを奥  
 村の途中で黄泉の長旅は起さし。其又伴等二個ありて。  
 是ぞ三世の孫次喜右八。蛙の子の蛙と化り。角芳繁の初孫よ。  
 後未緒うすれ出して。伊勢七女禁世三女。立場と藤流の版  
 一絶。道順豆ととめ女と。傀儡女郎は別深が出来その年  
 明を銘を脊負込。幸抱駿河の國元ある。親父々々の本家  
 あり。柳ある元手と借受。お娘とつる縁よ。つる縁のまじり

横濱ある。其天通の合衆世帯。西洋物の安納と。二個の妻よ  
 打もせ。自分達の賣込屋の。ちんちんして漸ふ其日と。富  
 幸の世と。甘くさあして。僕らの利益と得る。富  
 貴樓。歌好。岩亀樓。小娼妓と求め。角力。九  
 の。踊り。賣込。調子。發行。南東  
 米の相場。遠く。一。二。三。の定例。毎日。シ  
 西洋日曜休業。此知彼知の。止所。融通  
 義段。蟻。草。遊。身。果。果。

こやし川。割。川。果。減。猫。梅。借。借。  
 後。十時。頃。吉田。橋。後。下。次。さ  
 夕。娼。妓。の。漢。語。を。や。ア。グ。つ。て。藤。て。う。の  
 話。が。骨。が。折。れ。て。強。勢。よ。う。せ。や。ア。グ。つ。て。何。でも  
 彼。妓。の。儒。者。を。う。ら。し。い。と。云。見。減。だ。う。う。学。者。の。娘。は。遠  
 多。下。の。又。例。の。生。博。識。で。漢。語。だ。う。学。子。だ。う。有。頂  
 天。竺。唐。中。で。藤。云。の。う。る。答。を。して。女。科。の。意。を。



甘づられつらうハット大カのひそこの野ノ細コ糖トが東京  
 子コのあざげヤアアちよび助タ連タは附ツ合ヒって新シ規キからるルの  
 ぶらじカを藤フ果カをぶらじカつけてあアらうラ五イかよカ油ア揚ア油ア  
 もぞれイや引イ出イし遠トくトあアらうラ唐カ人カのあアらうラ  
 ぶらじカめメせセらうラのノ中ナらラあアらうラあアらうラ  
 のノ尾ビ書シをシらラうウ團ト子シヨヤハハせセくクあアらうラあアらうラ  
 所シ言ンじジココリリヤヤアア一一番番字字輪輪ししてて子子あアらうラそその  
 字ジ輪ルととららうウしてして緩キららんんととららうウあアらうラあアらうラ字ジ輪ル奇キ

煮ニ書シととららうウあアらうラあアらうラあアらうラあアらうラ  
 ちチのノあアらうラあアらうラあアらうラあアらうラあアらうラ  
 子シ春ハ込コでで白ハク粉コやヤうウけケつツけケてて白ハク粉コ茶チをを買カいイてて茶チ  
 たりチ遊ユ蕩トウのノ供キョウををしシららうウととららうウととららうウととららうウ  
 披ヒしシててららうウのノ性セイををあアらうラあアらうラあアらうラあアらうラ  
 つツまマのノあアらうラあアらうラあアらうラあアらうラあアらうラ  
 まマらラしてして人ニ参サン具キ具キどのノ糸イトハハササトトまマりリたタりリ因イン循ジュン姑コ息キツ  
 のノあアらうラあアらうラあアらうラあアらうラあアらうラ





西洋果毛絨上

五



花乃  
神の所  
志目や  
きぬの  
揚子

西洋果毛絨上

五



めづらうも「大らぐの鬼子母神」どす。辺迄小れう二枚  
 めつらきと小襲ともが西条柿を買て異方とわぎく  
 うらうの場やと往生して二枚もぎんで唐人の  
 おいどヨ蘇「十一」からうツ尻こそりうの大妻大子件どそ  
 の動まが不足どらう「う」おらうやア借ておらんの  
 む日物の「し」さうがぬこのねは「それ」どすもねつ  
 たらだうらうの「う」がぬいぜか「モウ」さうらうらう  
 いとして登「う」〜「キ」ト「子」のうらうめくおん「う」

ことなれうらうの「コ」北八「め」めらうの「う」さの「ん」どぞ  
 むが「の」場「う」どす「う」下「岩」や「神」風「あ」らうらう  
 わん「あ」ち「ん」〜「院」か〜「う」て「針」糸の「西」条「柿」どぞ  
 めらう「買」て「う」の「大」業「ま」だ「を」さう「け」て「お」る「せ」〜「う」  
 夫「大」笑「ひ」ヨ「う」く〜「ひ」も「じ」ら「と」さ「て」お「め」の「女」身「が」  
 つ「う」ら「ぬ」る「鬼」と「た」つ「た」あ「う」を「四」十「五」六「有」つ「こ」柿「を」  
 へ「う」ら「と」や「ら」して「あ」ま「う」ら「う」あ「う」ヤ「様」を「ぶ」つ「し」  
 孫「も」り「わ」か「や」う「〜」ぬ「ま」が「ら」ん「ぐ」ら「う」で「南」京「米」の「額」が「ま」

西洋書目録

食で煮る二階でおいらんが惣付どららうか」とこ  
ろが惣付がお業扱どららひげさまでひのどい板を  
抱へておこのどおへおふーろ二入りの兎のよく掃を  
喰つまぐと地がうてく「コレサあつこの兎が掃を喰  
より隣の客のよく掃帯を掃帯どららうの客  
のよく酒を呑客がまいてあれたら「コレサあつ  
アノだつそらう大分強打て来たやうとせ「コレサだら  
そらうのよくどがらそらうどららう「コレサあつこの兎で

顔おめをまらんとお何でもいから彼奴を掃帯  
列どらう述で此動定をあまらう付の大どらう「よ  
どらうして廊へでも列をうのえくおんぶで窓下  
際あそびついでよ浮れいどらうど「コレサあつこの兎  
ぬだどなれどそらういむらあが化されぬか「とこらう  
勢ををあるあのお舌溜々として細スハ「まらうく  
仕上ををぬらうらうて由酒をあぐれ「  
まらうく「おそのついでよ「コレサあつこの兎で  
ひのまの客のよくおしうい「コレサあつこの兎で

コレサあつこの兎で





百葉の  
のい  
の  
の  
の

西洋菓子の



西洋菓子の



られろと頼まれてありやと云れど彼等の借用は  
あつれて米草稿あつてふまゝらふやサイヤモウ  
証が日心小織華小耕を活業へらるせ人のんで  
はんせとの書はとりあつておれとのめいり  
ひらきとて「そんならハア先生方へ所考港の博識とせん  
びるよといふんよう夫故のなんまらびるは先のソト  
されどこのソアを私己のソアある一紙さう上て  
びるいひるアトとちうへあつてこのす始何おへい

有難うござりますまは河原宿へ博識ごの学業ごの  
崇号れてまのられる秘の人物あやござりますや  
んが當時武門を捨て身の上で外は活計のたて  
やうござりやせんうら東京うら此港へ流れて来て  
當時外人は難学を教へたり新聞紙の読  
や論文の著述でもして遊んでおやそのサハ  
そんな世方の先生へおっコリヤ僕が知の塾生でござ  
れ学申で何もござりやせんが香港の事情へ

ありくよく晴紀してありやとす。云々云々云々云々  
 今今日いつあるハア吉日で初る先生方より西  
 余のウ社にてハイイデ大夢のりつてござるコヤク女  
 酒と着のウ社持てとぎカイわくわくするやうな  
 由案内らつてやせつたをさつて入ることをやら  
 ぶる各地のことある港より異國の軍艦が何艘も  
 ひねが幾艘もその内出船の何処國のて入船の

何國ハ船將の名目つるその女房の何國の何某の娘  
 毛子どもが幾個有そらあやめんの異國の名ハ何と観  
 えが何知で小づつひが何助何助とリサる車の別あが  
 港湾の何長家のあんとつた女舟の何人よとつた  
 おつとつたも。中一節の大い世ハ。岩龜橋をそと  
 めとして。金浦。岡智。新龜橋。岩井。富士見。金石  
 樓。虫世。保橋。伊勢甲子。岩里泉橋。新五十鈴。玉  
 川樓で十又軒お又扇の敷々の長巻より國長巻を







飛とでもかかせなくつちやアつちの後ちうごが念ねんねんでそら  
 ちの目めもよめおんうらちく店みせおろしをしてはなせら  
 のしたるあつち肉にくを売る時とき小まむひ一文いちもんおし米こめ二粒  
 も給たまへうあそびありその手てあそびをしてはなせられそと  
 けらうあそび金かね所の店みせおろしと一所いっしょごううまはあやアそび  
 降くだるそのけううまはあや四町よんちやうの結むすみあさんあさんの知しよあ  
 ちりとり金かねがけしハハ野毛ののの細こさすいして和京わきやう  
 米こめの仕切しきりあつちああめのとらそらとあ合あハあ

こけらううまはあつちと三月さんがつねあつち店みせ賃ちやんの下したつねも  
 けらう障あや家の小こあ物もの屋やで時とき賃ちやんを一所いっしょああめ受うけ  
 てかへし米こめの卸おろ米こめ買かうてあつちあつち二日ふたひあつち  
 ちりあつちあつちあつち買かうてあつちあつちの布ぬい子こ  
 候さう候さうの帯おびあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち  
 販はんの代しろりあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち  
 おてられろと老おきな實まくあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち  
 心こころしてあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

西遊記

上







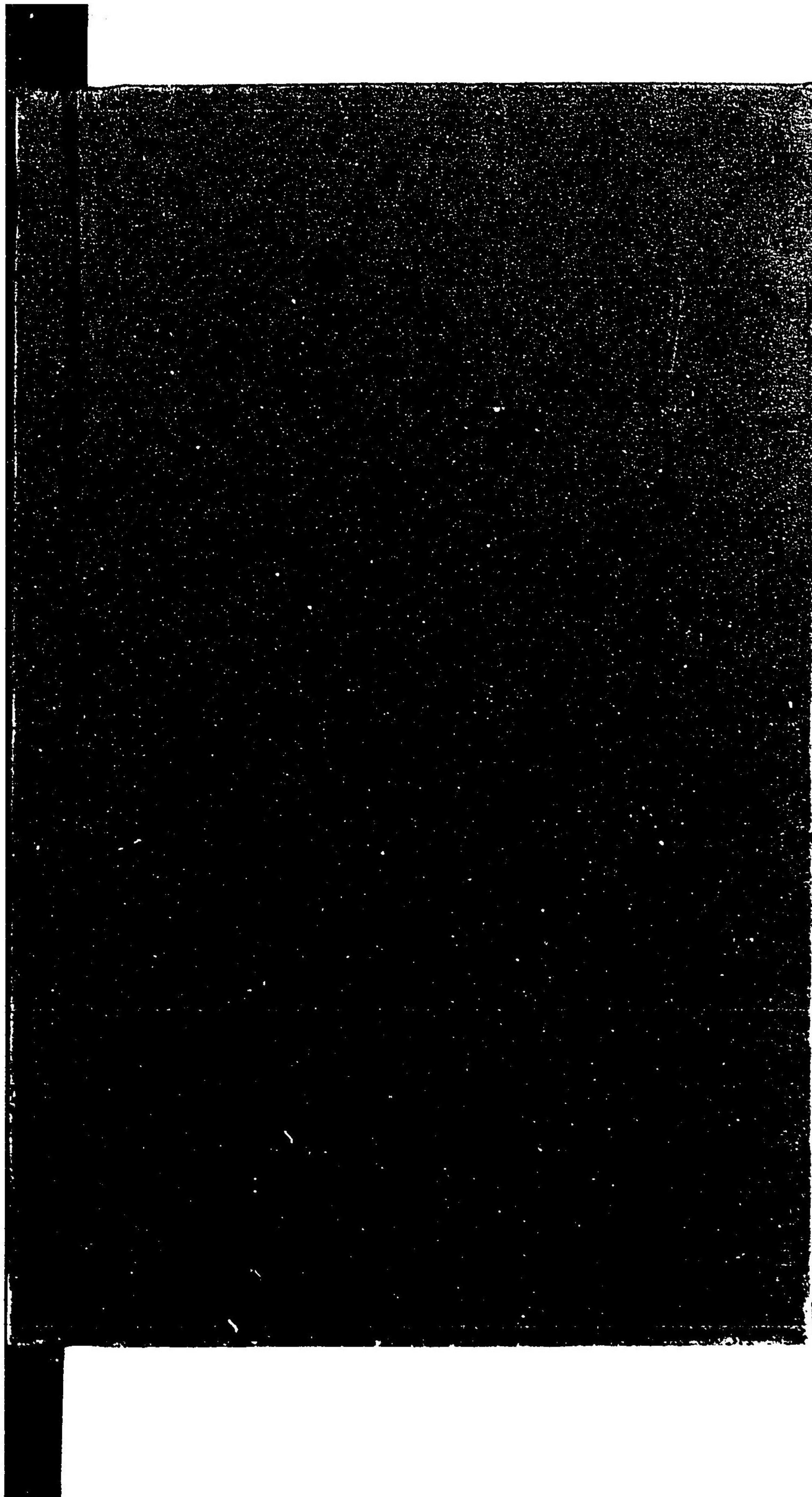
913.6
2
1

913.6-2

西洋書手続

よくも多量に赤の紙をかきせしむるに  
 ともくうーやぐれかきしむるに  
 かひてちかひのむしりぬひよおのそん人  
 の人にうたのせいけつけやうやふゆひ  
 こふひの書生のまきくと以上八人  
 さふらむぞをんひだまきまきんて  
 かくそふよのやのあふよと書生のまきや  
 こふひのかかりや目であらうなり

西洋道中膝栗毛初編上巻



わ913.6
2
1

091775-001-0

わ913.6-2

西洋道中膝栗毛 (万国航海)

仮名垣 魯文 / 著

M3 (序) - 9

DBO-0261

